

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日 令和5年 2月 6日

公表:令和 5 年 2 月 8 日

事業所名 チャイルドウィッシュいわの

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	2	職員の配置数は適切である	3	1		積極的な求人
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		遊ぶ場所、クールダウンの場所を分けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎日の掃除と消毒、除菌	清掃点検表で見える化していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		毎日支援の前後にミーティングを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者向け評価表を年1回行っている。	スタッフ間で評価表の共有をして改善を実現していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページで評価結果を公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		本部と相談していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		本部研修を始めできる限り参加している。	パートスタッフも極力研修に参加できるように調整していきたい。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		スタッフみんなで見学時からの子供の様子も含めて共有し、ミーティングを開いて作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			いずれ簡単な発達検査などを活用していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		支援計画を立てる前のアセスメントや保護者の方の意向など十分時間をとっている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			定期的に計画の確認と支援の方向性をスタッフ間ですり合わせていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		日々のミーティングでスタッフ全員で立案している。	毎日ミーティングに参加が難しいパートスタッフにも見える化で確認してもらい、参加できるミーティングでは意見を聞いていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		週間、日々の子供の様子を見ながら毎日活動プログラムを立てている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4		集団活動が難しい子にはどんな支援が必要かスタッフで話し合っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		毎日支援の前にミーティングを行い、支援の仕方、統合遊びの進め方等を確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		毎日支援後のミーティングを行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		HUGシステムを利用し、日々の提供記録をとっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			6ヶ月以内に一度はモニタリングを行っていく。(12月1日開所までまだ行っていない)

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達支援管理責任者が参加する体制をとっている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		通所決定時には連絡を取り、サービス利用計画書などをお願いしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				医療的ケア児は現在受け入れていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケア児は現在受け入れていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		支援前に保育所に連絡を入れ、子どもの様子を先生から聞いている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			開所間もないためまだ行っていないが、行っていく予定。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1		今後考えていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1		個人情報の観点から難しいが地域の行事などには積極的に参加していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	2		機会があればぜひ参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		日々の支援の様子を伝えている。必要な場合は事業所相談加算や、家庭連携加算をとって保護者の方とお話する機会を設けている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		本部の保護者向け研修の参加や、べあれんとサークルの参加を促し、保護者の対応力の向上を図っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に重要事項説明書を用いて丁寧に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		個別支援計画を渡す際、保護者に支援内容の説明をしている。原案が意に沿わない場合は保護者の方と再度話し、立て直して同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		モニタリングをはじめ、送迎時も保護者とのコミュニケーションを大切にしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2		べあれんとサークルを開催予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		常に保護者の相談を受ける体制は整えている。送迎時も保護者とのコミュニケーションを大切にしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		チャイルドウィッシュいわの便りを発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		ミーティング等でスタッフ全員に周知し、写真撮影などはあらかじめ保護者の方の同意書もらい、見える化している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		面談日の朝に電話を入れたり、利用予定の作成を手伝ったりしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1		個人情報の観点から難しいが、地域の行事に積極的に参加していきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルは契約時に保護者の方に配布して周知している	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2		年に2回訓練を行う予定。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	アセスメント時保護者の方から聞き取りを行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	アセスメント時保護者の方から聞き取りを行い、必要な対応を行う。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	日々のミーティングでヒヤリハットを挙げてその都度対応を検討している。	ヒヤリハット事例集を作成予定。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		スタッフ全員が少なくとも年に1回以上虐待に関する研修を受ける予定。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		今のところ身体拘束を行っていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。